



週報

Rotary
OITA JOSAI, 2720

会長 衛藤祐介
幹事 中山省悟

国際ロータリー会長
ゴードン R.マッキナリー
第 2720 地区ガバナー
膳所 和彦
大分第 4G ガバナー補佐
吉良 昌一



大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン 「委員会の活性化」

地区スローガン
ロータリーは学び舎であり、また遊び場である
そして今、ロータリーアクションは世界を変える。

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	4月 24日					3月 13日					編集担当
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジタ-	会員総数	出席者数	補欠数	修出席率		
	29名	22名	75.86%	2名	0名	30名	20名	2名	75.86%		5月 吉岡尚美 6月 中村智美
例会日	水曜日	12:30～13:30	事務局	〒870-0021	大分市府内町トキハ会館 4階	Eメール	例会場	ホテル日航大分オアシスタワー	TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386	ホームページ	oitajosairc@mist.ocn.ne.jp http://oitajosairotaryclub.com

2023-2024		第 33 回例会		青少年奉仕月間
5月 15日		No.1556		
◆本日のプログラム				
12:30	点鐘			
	国歌斉唱 「君が代」	ロータリーソング「奉仕の理想」		
	ゲスト・ビジターの紹介	衛藤祐介 会長		
	会長の時間	衛藤祐介 会長		
	出席報告及び幹事報告	中山省悟 幹事		
	ロータリー情報	R 情報担当委員		
	委員会報告	各 委 員 会		
	スマイルボックス	親 瞳 担 当		
13:00	クラブ協議会 「今年度を振り返つ て」			

◆今週のお祝い	
●創立記念日	
	中山省悟会員
	(株)ホームリンク H23年5月15日(13年)
	石橋春明会員
	(株)AES設計 H18年5月19日(18年)
●在籍記念	
	伊東真知子会員 H26年5月14日 (10年)

●結婚記念日	吉岡尚美会員 H9年5月17日
●会員誕生日	中山省悟会員 5月 15 日

◆幹事報告
• 本日の回覧物は、5月例会の出欠、会長ノミニー研修開催のご案内、トキハ会館よりメキヤップ駐車券の配布終了について、大分キャピタル RC 週報、大分県立歴史博物館展示・催しのご案内です。
• 来週 5/1 とその次の 5/8 は定款第 7 条第 1 節に基づき例会取りやめです。次回は 5/15(水)のクラブ協議会となっておりますので、お間違えのないようお願い致します。
• 本日各委員長さんと担当リーダーの方に、クラブ協議会で発表していただく今年度の振り返りを記入していただく用紙を配布しております。昨日メールでもお送りしております。提出期限は 5/10(金)となっていますので、期限厳守でお願いします。

◆ゲスト・ビジターの紹介(4月 24日)	
●ゲスト	大見正樹様 (大分銀行アセットコンサルティング室 室長)
	平山和成様 (大分銀行アセットコンサルティング室)

◆今後の例会予定	
●5月 22日	廣瀬舜一会員の卓話
●5月 29日	クラブ協議会「次年度委員会ごとの奉仕計画の協議」
●6月 5日	6/6 (木) 例会変更
●6月 6日	会員増強親睦夜例会
●6月 12日	クラブ協議会「次年度奉仕活動計画の発表」

●職業奉仕 3 分スピーチ

神野寛明会員

(5/22)吉岡会員 (5/29)奈須会員

◆米山特別寄付

木下光一会員 10万円

この4月に10名の新入社員を迎えました。彼らと共に当社一層成長して行くことを目指します。
記念に特別寄付10万円を申告いたします。

◆スマイルボックス

岩田和久会員 2口

会社の設立記念と奥さんの誕生日の花のお礼として申告します。

山本真一会員 1口

妻の誕生日にお花をいただきありがとうございました。
妻の誕生日覚えていたのですが…

職業奉仕スピーチ 高木昭信 会員

所有者不明土地の解消に向けた様々な取り組み
狭あい道路の問題とその解消に向けた取り組み
についてお話をいただきました。

会長の時間(4月 24日) 会長 衛藤 祐介

幸田露伴「五重塔」

「五重塔」は幸田露伴が明治25年に書いた小説です。

といつても、建築的な話ではなく人間同士の葛藤を描いた物語となっています。

明治時代の小説なので「文語体」で描かれており、若い人には最初は抵抗があるかもしれませんのが、読み進むにつれて慣れて心地よいテンポがわかつきますので、是非読んでみてください。

内容は簡単にいうと、現在でいう建築工事受注競争です。

腕はあるが愚鈍な性格で世間から軽んじられる「のつそり」と大工の十兵衛。谷中感應寺(今の天王寺)に五重塔が建立されることを聞いたときから、一生に一度あるかないかの、その仕事をやり遂げたいと熱望し、朗円上人に聞いてもらいたい一心で五重塔の模型を造り、それをもって上人に会いに行きます。

ところがその仕事は既に、世間から名人よ、器量者よと褒められる親方の源太が受注していました。源太は十兵衛が日頃から世話になっていた相手です。

上人は十兵衛の熱意を知り、模型を見てその技術と反面の不遇に同情しました。十兵衛と源太を寺に呼んだ上人



は、技術においても情熱においても比べられない二人だからこそどちらが仕事をするか二人で話し合って決めるように諭します。

上人の思いやりに応えようと源太は十兵衛の家を訪ね、職人の欲も不義理への怒りも捨て一緒に作ろうと提案します。しかし十兵衛は無愛想にその提案を断ります。十兵衛にとっては、自分が作るか、作らないか、どちらかしかないのでした。

葛藤の果てに源太は上人のもとへ向かい先日の顛末を語り、十兵衛に任せても自分に任せても一切のわだかまりを持たないため上人に決めてほしいと願います。

上人は十兵衛も全く同じ話をしていたと源太に伝え、満面に笑みをたたえながら建てる以上の立派なことだと褒められた源太は「兄として可愛がってやれ」と言われて涙を流すのです。

源太は五重塔を建てるに至った十兵衛を宴に招き、全てを水に流そうと申し出で、更に己が描いた五重塔の下絵や寸法書を役立てて欲しいと渡しますが、十兵衛は見ることもなく断ります。十兵衛が五重塔の仕事がやれるのは、源太より優れているからではなく、正直さが上人から好かれた訳でもない。ただ源太が上人の言葉により全てを胸に納め席を譲ったことによるのです。

十兵衛は他人の心を汲むよりも職人としての構想、技術を満たそうとすることを優先したのです。

十兵衛は誠を尽くし、全てに心を入れて己を仕事に捧げます。色々あって、片耳を切り落とされる重傷を負った十兵衛は休むことなく仕事場に向かいます。十兵衛は職人たちが自分を軽んじていることを承知しており、働いて貰うには身体を労ることも無用でした。

ついに塔は完成します。

落成式を前にして江戸を暴風雨が襲います。上人から呼び出された十兵衛は、上人様は自分を信用してくれないのか、恥を知らず生きる男と思われたら生きる甲斐なしと嘆きながらも嵐の中を谷中に向かいます。塔に登り嵐に向かう十兵衛。その頃、塔の周りを徘徊する源太の姿がありました。果たして塔が壊れれば恥を知らず生きる職人として十兵衛を許さざる腹だったのか、叙述はありません。

人の為せぬ嵐が去った後、人が為した塔は一寸一分の歪みがありませんでした。落成式の後、上人は源太を呼び、十兵衛とともに塔を登り「江都(江戸のこと)の住人十兵衛これを作り、川越の源太これをなす」と記し満面の笑みを湛えます。かつて幼い兄弟が2人だけで大河を渡る寓話を十兵衛と源太に語った上人は、いま職人たちが言葉に尽くせぬ苦悩や葛藤の果てにこう岸にたどり着いたと祝っています。十兵衛も源太も言葉なく、ただ頭を下げて上人を拝むだけでした。 という物語です。

ここで考えてみますと

親方の源太は江戸っ子気質。任侠、義理、報恩、そうしたところに非常に重きを置くため、十兵衛の現代的個人主義には閉口し、ときに激高しています。そのさまは新卒に手を焼く管理職のごとく、非常に葛藤することやみません。それもこれも、煮え切らぬ上人のせいのようにも見えてしまいます。もっともらしい説話などを並べ、具体的な指示を出さない上級管理職のため、下々の人間たちが踊ることになるのです。

この物語の構造は現代社会の組織体、建設的プロジェクトと非常によく重ねられるのではないかと思います。

十兵衛の職人としての、他人を顧みずに仕事に突き進

むエゴイズムは、一般には受け入れられないかとは思いますが、私はあこがれてしまいます。

卓話の時間

大分銀行アセットコンサルティング室 室長 大見正樹 様

本日は大分城西ロータリークラブにお招きいただきありがとうございました。

私は1年前に大分銀行に入行したばかりの新入行員です。

野村證券で30年以上働いてきましたが、今回の提携で大分銀行に出向しております。

実は12年前も野村證券大分支店長として大分で働いており、大分が大好きになり、野村の人事部にお願いしてもう一度大分で働くことを希望して、実現しました。

大分を豊かにするために、正しい投資を広めていくことを目的として日々努力しております。

本日の講演内容は以下の4点です。

- ①日経平均34年ぶり高値更新
- ②日本の景気は
- ③AI人工知能と半導体に注目
- ④正しい投資とは

ご清聴ありがとうございました。

